

令和元年度 第1回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨（案）

日 時：令和元年 10 月 24 日（月）15:30-18:00

場 所：国立情報学研究所 19F 会議室

出席者：（敬称略）

【委員】

喜連川優（本部長）、棟朝雅晴、田浦健次朗、森健策（TV 会議）、中村裕一（TV 会議）、和田耕一（TV 会議）、松浦知史（代理出席）、相原玲二、和田智仁（TV 会議）、高田唯史（TV 会議）、石黒静児、美濃導彦（TV 会議）、曾根秀昭（TV 会議）、岡部寿男、漆谷重雄、合田憲人、高倉弘喜、山地一禎

【陪席】

高橋稔（文部科学省）、笹山浩二、明石修、栗本崇、坂根栄作、竹房あつ子、木下聡、武川利代巳、上村順一、松村光（国立情報学研究所）

【事務局】

樋口秀樹、小野亘、土井光広、松岡喜美代、前田光教、山本一登、窪田佳裕、齊藤麻友子

議事：

1. 前回議事要旨確認

喜連川委員長から、資料 2 に基づき説明があり、了承された。

2-1. SINET 事業報告

漆谷委員から、資料 3 に基づき、2019 年 2 月から 3 月に国際回線の増強を実施し、日本-米国-欧州をリング状に 100Gbps にしたこと、日本-シンガポール間についても 100Gbps に増強したことが報告された。また、12 月に東京-大阪間に 400Gbps 回線を増強することが補足された。

2-2. 次期ネットワークについて（案）【審議事項】

漆谷委員から、資料 4 に基づき、次期ネットワークの方針について以下の説明があった。

- ・国内回線は 400Gbps を中心に整備し高速化を図る
- ・ノードから距離のある研究機関の利便性向上のため拡張ノードを設置する
- ・モバイルとの融合としてローカル 5G のトライアルも検討する
- ・ノードに仮想集約エリアを整備し、エッジ機能を充実の他、大学のサーバのホスティングが可能となるよう検討する

その後、以下の質疑応答があった。

- ・北海道は遠隔地に農場や演習林等の施設があり、ネットワーク接続が課題となっており、丁寧なヒアリングの上で拠点を検討頂きたい。（棟朝委員）
 - 加入機関からは、しっかりヒアリングを行いたい。（漆谷委員）
- ・モバイル SINET は、今後 SINET へのアクセス手段の 1 つとする方針なのか。その場合コスト負担はどうか。（相原委員）
 - モバイル SINET は、通信データ量の制限等もあるため、当面はアクセス回線の代替とは考えていない。（漆谷委員）
- ・L2VPN 利用数が何故ここまで伸びたのか。どのような用途で利用されているのか。（田浦委員）
 - クラウドの利用や、マルチキャンパスでの接続や共同研究における利用によるものである。（漆谷委員）

その後、本案について審議を行い、本案に沿って次期ネットワークを整備することについて了承された。

2-3. ネットワーク作業部会報告

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）から、資料 3 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・次期ネットワークの整備方針について審議し、先ほどの審議事項について本会議で審議することが了承された。
- ・その他、SINET5 及び eduroamJP のアップデートについて報告を行った。

3. 2019 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

事務局から、資料 6 に基づき、6 月に開催したオープンフォーラムについて報告があった。また、NII サービス説明・相談会を 10 月～12 月に全国 6 会場で開催するとの補足があった。

4. オープンサイエンス事業報告

山地委員（オープンサイエンス研究データ基盤作業部会主査）から、資料 7 に基づき、以下の報告があった。

- ・現在、12 機関で Gakunin RDM の試行運用を継続中であり、統合イノベーション戦略 2019 に記載されたとおり、ムーンショット研究開発制度でも先行的に本基盤を活用予定である。
- ・作業部会内に 2 つの Sub WG を立ち上げ、システム面と人材育成面の両面で活動を実施している。

これについて、以下の質疑応答があった。

- ・ URA 等に OS 関連業務について教育できるため、人材育成の活動はありがたい。わかりやすいスキル標準・教材・テンプレート・マニュアルがあると学内でも周知しやすい。（棟朝委員）
 - ガイドライン作成に際し、AXIES でも提言をまとめた。図書館界ともパイプが強いため、協力して実施している。NII サービス説明・相談会等でも説明はしているが、URA へのリーチアウトについては別途の方策も検討したい。（山地主査）
- ・ 名古屋大学でも、Gakunin RDM の導入にあたり、情報基盤センターのみでなく産学連携や本部の役員会など全学に渡って動き始めている。（森委員）
 - 産学連携における研究データ管理について、年度内には国としての基準を整理できる見通し。（喜連川本部長）
- ・ 研究データの蓄積は重要であるが、蓄積したデータが流出するのはまかりならないものである。安全保証輸出管理の点でも、情報セキュリティについては管理の対象に含まれている。保存する情報について、機微性に掛かる認定が付与可能で、かつセキュリティレベルに考慮した設計を含めて欲しい。（相原委員）
 - 情報の機微性に応じた保存先の選択はオーストラリア等で既に導入されており、Gakunin RDM についても同様の機能を検討している。（山地主査）
 - 学認クラウドのチェックリスト調査結果を用いて、保存先を判断いただくことも可能である。細かい仕様等についてはユーザ側の判断になり、ケースバイケースで相談に乗ることも可能である。（合田主査）
- ・ 大学として全学的に導入する場合、箱として保存先を用意し、利用者の要求要件に応じて提案を行う形になると見られ、要件を明確化したい。（相原委員）
 - 広島大学の西村先生も含めて、一緒に議論できたらと考えている。（合田主査）
- ・ オンプレミス環境と Gakunin RDM の接続を検討しているが、接続方式は決定されているか。（田浦委員）
 - 現在は S3 互換で接続可能。（山地主査）

5. 学術認証推進室状況報告

坂根室長から、資料 8 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ 学認については、Shibboleth IdP v4 のリリース準備のほか、文科省と新 e-Rad 連携について調整を行っている。
- ・ UPKI 電子証明書発行サービスについては、ユーザからの要望により、有効期間がより短いクライアント証明書プロファイルを追加した。
- ・ eduroam については、会議向け期間限定 eduroam アカウントの試行を 12 月で終了し、代替措置として一橋講堂でのゲストアカウント発行を可能とした。これについて、以下の質疑応答があった。

- ・学認の利用機関が延びてきた次の段階として、各機関で IdP を準備した後に SP を増やしたい、と考えた際に対応できるベンダが非常に少ない印象を受ける。SP に対するベンダ向けのキャンペーンを行った方が望ましい。(相原委員)
- 実態に即した形で、SP 向けに技術セミナーの開催等を検討したい。(坂根室長)

6-1. クラウド事業報告

合田委員から、資料 9 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・学認クラウド導入支援サービスでは、チェックリストの作成と回答の検証・提供を実施しているほか、クラウド事業者付きの Sier 向けのセミナーを実施し、レベルの底上げを図る予定である。
- ・環境構築の支援を目的とした学認クラウドオンデマンド構築サービスの提供を開始し、および、経年でのクラウド活用度調査結果を紹介した。
- ・プロジェクトとして、SINET 広域データ収集基盤向けソフトウェア基盤 SINETStream を開発しており、デモパッケージを公開している。

この説明に関して、以下の質疑応答があった。

- ・ 利用相談についてはオンプレミス利用も含めて受けているのか。(喜連川本部長)
 - 基本的にはパブリッククラウドに限定しているが、北大クラウドについては他機関にサービスを提供しているため含めている。(合田主査)
- ・ 大学としてはオンプレミス環境を使い続けなければならない状況もあると考える。(喜連川本部長)
 - クラウドとオンプレミスの環境の使い分けが世界的な流れとしてある。(合田主査)
 - クラウドとスパコンの一体運用も潮流に併せて検討していきたい。(棟朝委員)

6-2. クラウド作業部会報告

合田委員(クラウド作業部会主査)から、資料 10 に基づき、クラウド作業部会において、データプラットフォームについての意見交換と、京都大学からクラウド活用事例紹介が実施された旨報告があった。

7-1. 国立情報学研究所セキュリティ運用連携サービス利用規程等改正(案)【審議事項】

岡部委員(セキュリティ作業部会主査)から、資料 11 に基づき、国立情報学研究所セキュリティ運用連携サービス利用規程及び細則について、運用に関する禁止事項とペナルティの明確化について改正したい旨説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

7-2. セキュリティ作業部会報告

岡部委員（セキュリティ作業部会主査）から、資料 12 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・情報共有ページ（meatwiki）の情報公開設定不備があり、NII のインシデント対応について指導を実施し、NII 側の運用責任体制について明確化した。
- ・NISC サイバーセキュリティ協議会に一般構成員として 5 月に入会が認められた。
- ・CISO 向けマネジメント研修をセキュリティ作業部会主催で 11 月に実施予定。
- ・研究用ベンチマークデータを 2020 年 3 月から提供開始するようスケジュールを検討した。

この説明について、以下のような質疑応答があった。

meatwiki について、経緯や対策等についてはいかがか。（喜連川本部長）

- 即時利用停止もできないため、別システムを構築中であり、移行まで暫定対応を実施している。（高倉委員）
- システムの全体像を把握せずに利用していたのが実態であった。meatwiki は情報共有用のツールであり、元々機微情報を記載するものではなく、新システムの導入時には入念な確認を行うように指導を行っている。（岡部主査）

7-3. セキュリティ事業報告

高倉委員から、資料 12 および 13 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・NISC サイバーセキュリティ協議会入会について参加機関に通知を実施した。また、検知機器の負荷が上昇しているため、非常時対応の運用について検討しており、月当たりの通知件数が多い機関に対して監視を一時停止する案も検討している。
- ・警報情報ダウンロード API の試験運用を開始しており、今後、NII-SOCS インシデントマネジメント研修、参加機関ミーティング、研究用ベンチマークデータの提供を予定している。なお、このためのデータ提供のための利用規約を作成し作業部会で検討中である。

また、岡部主査から以下の補足があった。

- ・規約について最終的に次回の本部会議で承認をいただく予定であり、本規約の制定により、脱退を希望する機関が発生する場合の猶予期間も設ける。

これらの説明について、以下の意見があった。

- 資料 11 と比較して書きぶりが緩いため、第 8 条をより厳しくしてもよいのではないか。内容を詰めていただきたい。（喜連川本部長）

8. 情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根主査から、資料 14 に基づき、サンプル規定集について、「政府機関等の情報セ

セキュリティ対策のための統一基準群（平成 30 年度版）」に準拠した形での更新を実施中である。また、情報セキュリティ教材の整備として、新規でインタラクティブ教材を作成中であるとの報告があった。

9. その他

事務局から、次回の本部会議の開催候補日について後日案内する旨連絡があった。

以上